

The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

《幻がなければ民は墮落する》箴言29章18節

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎

編集者 萩谷長生

印刷所 株式会社スコポーション

公 示

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会第103総会を下記の通り開催します。

2018年10月29日

会長 足立征三郎

記

日 時：2018年11月24日(土) 12時～受付開始

場 所：聖マルコ教会 〒183-0045 府中市美好町3-8-2

TEL：042-361-7680

感謝礼拝：12時30分～

司 式：聖マルコ支部チャプレン 佐々木庸司祭

(入会・再宣誓式 司式：本部チャプレン 下条裕章司祭)

説 教：本部チャプレン 高橋宏幸司祭

記念写真撮影：礼拝終了後

第103定期総会：14時～

*第1号議案 2019年度事業活動計画(案)承認の件

*第2号議案 2019年度会計収支予算(案)承認の件

懇親会：15時ごろ～

総会終了後、同教会会館にて開催(参加費 3,000円)

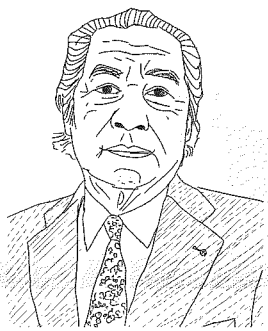
創立100周年への初年度とって

BSA 会長 マルチン 足立征三郎

今から43年前1975年9月発行のVISION創刊号に「新たな前進めざしBSA新体制出来る」と大見出しがあります。「再建委員会」発足・最終報告を受け「理事会」「臨時総会」を経て再建委員会案が諒承、会費改訂も可決、新役員16名が選出された、とあります。

現在のBSAが置かれている状況は当時と大きな共通点があります。

この時期はBSAの業務全般を常駐して取り仕切っていた八木立三さんが病を得て退職、2年間本部機能は停止し、VISIONも2年間休刊していたものを会員自らの手で運営、再建しようという時期でした。再建委員会委員長は後の会長伊達宗浩さんでした。



現在のBSAは一般社団法人移行に伴い、今までの蓄積した資金は公益目的の支出計画を当初の計画から一年遅れて完了することになります。これからまさに新しい出発です。

2018年4月現在、正会員153名、賛助会員81名、聖職会員62名です。(15支部)

2017年、BSAは創立90周年を迎えました。10年先には100周年が控えています。

- 具体的活動として
- ① BSAの基盤強化
 - ② 財政基盤の強化
 - ③ 本部だより継続
 - ④ 教会・支部訪問、会員増強
 - ⑤ 定款の精査
 - ⑥ 会長・副会長会の定例化
- 広報活動
- ⑦ 信徒叢書の宣教活用
 - ⑧ VISION送付先の見直し
 - ⑨ 聖徒アンデレ同胞会事典配布
 - ⑩ ホーム・ページの充実
 - ⑪ 管区・教区だよりへの寄稿
- 教育事業
- ⑫ 青少年育成プログラム実施
 - ⑬ 研修旅行企画・実施
 - ⑭ BSAセミナーの開催
 - ⑮ 立大BSA第8支部と協働

90年間に活動実態は大きく変化しました。社会状況や人々の意識と生活様式の変化、聖職・信徒の減少と価値観の変化によるものです。

そのような中で100周年をどう迎えるか。一番の課題はBSAを維持運営する財源のほとんどが会費のみとなることです。会費収入を維持し、財政基盤を強化していくには周辺の環境整備が必要です。2019年度は100周年に向けて、BSAのインフラ整備の初年度としたいと思います。

一、BSAの裾野を拡げる活動
会員以外への働きかけを強化し、裾野を拡げる努力を行う。

二、BSAの露出度を上げる活動
BSAと聞いて、それが何であるか分かってもらえようようにする。

三、会員一人一人を大事にする
情報の伝達を密にし、BSAの一体感に繋げていく。会員あつてのBSAである。

四、創立100周年への取り組み
「100周年プロジェクト」(仮称)を立ち上げる。

財政状況について

財務担当理事 ヤコブ 後藤 務

BSAの昨今の財政状況について若干の説明を、ということでしたので今回寄稿することになりました。そもそも財政に対する課題が大きく意識され始めたのは、2006年3月に閣議決定され、同年5月に第164通常国会において法案が成立し、2008年12月から施行された「公益法人制度改革関連三法案」によるものです。この制度変更に基づき、BSAは一般社団法人に移行することを総会で決議いたしました。この移行に伴い、それまで基金としてあったBSA基金とポール記念基金等約730万円を4年間(2017年11月までに)で

消費することが義務づけられました。しかしながら、消費の進捗が予定より遅れたため、消費期限の1年間延長を申請し、認められました。これにより、法人移行前にあった基金等は2018年11月をもってゼロとなります。

これまでは、会費収入でカバーできないところは基金等の取崩しというところで処理してきましたが、今後は、会費収入の範囲内で活動計画等を考えることが必要となります。

現在、実績ベースでは、年間の会費収入は、80万円前後で推移しています。それに対し、支出関係では、文書活動費(主としてVISIONの発行)だけで60万円前後の支出となり、これらの数字だけを見ると何やら悲観的なものしか見えて来ないようにも思えます。

しかしながら、BSA本来の精神である、聖公会にあって祈りと奉仕を通して良き知らせを広める信徒活動という原点に返るとき、わたしたちにはこの様な財政状況を乗り越え、なすべきことがあるのではないのでしょうか。そのためにも、是非会費納入にご協力いただきたいと思っております。

各支部がBSAの原点である信徒活動を展開し、本部が積極的に各支部との連携、また経済的なものも含め、活動支援を行うことのできる、生き生きとしたBSAをめざし、全員で努力することがいま求められているのではないのでしょうか。

わたしたちは前述の財政状況を悲観的に捉えるのではなく、この基盤の変化を創立100周年を目指す新たな挑戦の時と捉え、小さな力しか持たない者かもしれませんが、御国の実現に向け、すべての教会と共に歩むことができるよう祈りつつ前進できるように願いたいと思っております。

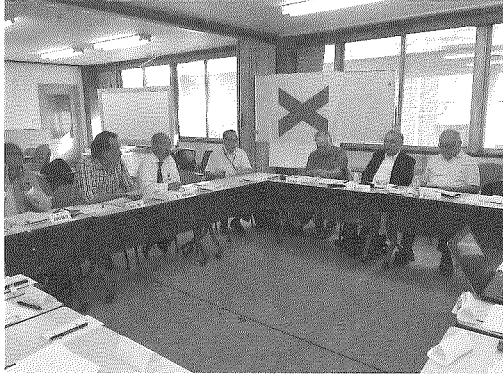
支部との絆を深める 支部長会議開催

支部長会議が10月6日(土)、東京教区会館で開かれ、15支部から11人が出席した。本部からは足立会長以下支部長兼務2人を含む10人の理事・監事が出席した。

会議は木島副会長の司会で始まった。今年のテーマは「支部との絆をふかめる」。

足立会長は、さる6月に盛岡支部や平塚支部、そして9月に東京聖三一支部を訪問したことを紹介して、「支部活動がBSAを支える柱である」と挨拶し、支部との関係強化の重要性を強調、支部長の協力を求めた。

さらに2019年を100周年に向けた最初の年としたいと抱負を述べた。



そのあと、尾崎茂雄、木島出副会長から青少年キャンプや研修旅行、BSAセミナーなど、本部の活動を報告、その上で、次年度は財政問題が大事な年になると指摘した。

各支部からは、会員の高齢化や減少が避けられない中で、毎月例会を守り、聖書や「信徒叢書」の学び、教行事への参加、各種の奉仕活動やイベントの開催に励んでいる様子が報告され

た。最近新しい会員が入り、休眠状態から抜け出した支部もある。

本部への要望では、ポール・ラッシュユカリの清里でのBSAキャンプの実施、ホームページの充実、女性会員の正会員化、会費納入率の向上などのほか、BSA90周年記念誌「希望のBSAをめざして」の内容は評価するが、募金については、VISIONの記事に唐突感があり、支部内での反発が大きいという指摘があった。

代理を含む出席支部長は、赤坂徹(盛岡)、秋山献之(福岡)、天野公成(池袋)、岩間光雄(房総)、金子真(林間)、小室喜雄(平塚)、島崎敏彦(聖マルコ)、高橋保(横浜聖アンデレ)、野田徹(清里)、早川潔(聖ルカ)、松田正人(南町田)の各兄。

(理事 ダビデ 吉松英美)

6年ぶり BSAセミナー開催

BSAセミナーが10月13日(土)に横浜山手聖公会で開かれ、48名が参加した。2012年9月の「信徒の霊性」以来6年ぶりである。

講師は根谷崎武彦さん。山手聖公会信徒で、管区史談会員。1854(嘉永7)年3月、アメリカのペリー提督が通商条約締結を求めて横浜にやって来た。一行が横浜沖に停泊中、一人の乗組員が死亡した。

葬儀について日米で協議した結果、キリスト教式で行うことになり、同行のチャプレンが聖公会の祈禱文により司式して遺体は増徳寺境内に埋葬した。そのあと日本の僧侶が読経した。ペリー提督は聖公会の信徒であった。死亡したロバート・ウィリアムズは外国人墓地初の埋葬者となった。明治維新(1868)の数年前のことであった。

根谷崎さんは用意した資料をもとに分かりやすく説明して参加者の好評を博した。

午後は、葬儀が行われたあたりを歩いた。当時の面影はないものの、参加した人たちは図面を片手に想像の世界にしばし浸った。(写真)



今回はVISIONだけで 東京教区「きょうくニユース」

「管区事務所だより」は、横浜教区内各教会の牧師、BSA支部長を通して2回、3回と粘りつよく周知と参加勧奨を行いBSAの「見える化」を試みた。おかげでこれまでにない多くの参加者を得た。

参加者の三分の一は会員以外で遠くは仙台市から参加した。ご協力くださった横浜教区の司祭のみならず、会場を提供してくださった横浜山手聖公会の竹内一也司祭、講師の根谷崎武彦さん、同教会の赤堀素子さん、遠藤徹さん、森垣肇さん、そして各支部長に心から感謝を申し上げます。

(理事 ダビデ 吉松英美)

聖三一教会支部との 懇談会

9月2日(日)に足立会長、尾崎副会長および島崎、萩谷両理事が東京聖三一教会の主日礼拝に出席し、午後から同教会支部の会員との懇談会を開いた。

当日はあいにく多くの会員の都合がつかず、支部側からは川村啓三支部長、津村周伝兄、松田義夫兄の3名が参加した。少人数ではあったが、それだけに膝詰めで忌憚のない意見の交換をすることができた。

先ず進行役の川村支部長からは、高齢化の問題を抱える中、いかに若者に関心を持たせるかが課題であるが、他方、BSAの会員増、ひいては教勢回復のために60才台のシニアもターゲットにすべきとの意見が出された。

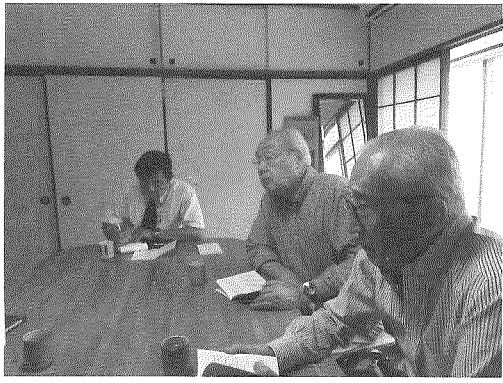
足立会長は、BSAの大きな目標の一つは青少年の育成である。実施するためのキャンプを毎年実施して、BSA活動を広げ、中高年層に支えられている実態を認識し、今後とも組織の活性化を図りたいと述べた。

BSAの財政の基盤である会費について、津村兄は納入率が低いと指摘。各会員がより払いやすいシステムを検討するよう要望した。

その他、教会(BSA)の裾野を広げるための方策、ホームページの更新・活用等、多岐にわたって意見交換を行い、午後3時過ぎに本部と支部の連携を深める有意義な懇談会を開いた。

なお、その後松田兄の意見として本紙に投稿があり、4面に掲載したので参照されたい。

(理事 テモテ 萩谷長生)



秋の研修旅行 第3回「東北巡礼の旅」

クリストファー 島崎敏彦

はじめに

東日本大震災から7年を経た被災地の現況を体感し、改めて復興支援の在り方を問い直すため、9月12日から2日間、磯山聖ヨハネ教会(福島県相馬郡新地町)跡地と小名浜聖テモテ教会(いわき市小名浜)を訪ねた。この巡礼の旅には9名が車2台に分乗して参加した。以下、現地での「百問は一見に如かず」の体験、印象などを報告する。

水曜喫茶での被災者との交流
新地町青少年勤労センターで、主に原発事故からの避難者の方数名にスタッフを加えて交流した。被災者の一人は自分たちが防災対策等を発信したいと話していた。

磯山聖ヨハネ教会での礼拝

昨年完成した礼拝堂で昼の礼拝を奉げた。信徒の三宅さんは、津波に巻き込まれた後、やっと教会で無事家族と再会できたことと述べ、また、津波被災で失ったものは多かったが、それでも得たものもあったと語った。その後、元の礼拝堂の跡地に作られた「祈りの庭」で鐘をつき、黙祷した。(写真)



ふじ幼稚園での祈り
通園での帰宅中に犠牲になつたふじ幼稚園の園児12人と園児を守って亡くなった教諭1人を覚えて、前東北教区主教加藤博道師父により追悼の祈りが奉げられた。この日の宿の鹿狼の湯では、同師を囲んで懇談のひと時を過ごした。

帰宅困難区域の車窓点描

原発事故による帰宅困難区域付近を通る常磐道(往路)では放射能線量計が高い数値を示す。復路の国道6号線では、問題の区域に近づくにつれて刈り入れ間近の田園風景は消え、やがて雑草の生い茂る耕作放棄地が広がる。標識に従い、放射線被爆を避けるため車の窓を閉め、道路沿いの目隠し壁の隙間からは山積みされた汚染土入りの黒い大きな袋が目に入る。息苦しいほどの圧迫感である。脇道への通行を規制する要員の姿を除いて人の気配は全くない。人影の消えた集落からは、復興の未来図を想像できず、言いようのない絶望感に襲われる。

小名浜聖テモテ教会での聖餐式
復興支援活動に携わる小名浜聖ペテロ教会の越山健蔵司祭の案内で放射能の影響と思われる植物異変の例を見せていただいた。付属幼稚園のブドウの木は震災後、突然豊かに実を結ぶようになり、逆にビワの木は葉だけ繁茂したと言う。これらがセシウム等の放射能に起因するとすれば、本心に恐ろしいことだ。おわりに

今回の研修旅行では、計画の段階から助言を賜り、また現地での案内役をしていただいた加藤博道主教、そして急遽、聖餐式で旅の締め括りをしてくださった越山健蔵司祭に、この紙面を借りてお礼を申し上げます。主に感謝。

(理事、聖マルコ教会支部長)

横浜教区 アタナシオ入江修師 主教按手式

9月8日(土)に横浜聖アン
デレ主教座聖堂で主教被選者イ
グナシオ入江 修司祭の主教按
手・就任式が行われ、同師父が
横浜教区第12代目の主教として
着座されました。横浜教区は4
月から中部教区の洪澤一郎主教
の管理のもと、過渡的な体制を
余儀なくされていまして、この
よき日に新しい主教が与えら
れたことは教区はもとより広
く全公会にとって慶事です。

今回の按手式は、北海道地震
のため止む無く欠席となった植
松誠主座主教に代わって、京都
教区高地敬主教の司式、九州教
区武藤謙一主教の説教で行われ
ました。式典には大韓聖公会大
田、釜山、ソウル各教区の主
教を含む国内外の聖職と信徒
550名余が列席し、BSAか
らは足立征三郎会長、尾崎茂雄、
木島出副会長の他、会員、賛
助会員多数が参列しました。

入江修主教は1956年生ま
れ、佳代子夫人と2男2女の6
人家族。東京理科大学を経て聖公
会神学院を卒業し、1984年
に執事となり、翌年司祭に按手
されました。八日市場聖三一、
清里聖アンデレ、小田原聖十
字、逗子聖ペテロ、横浜山手聖
公会の各教会で司牧して来られ
ました。

礼拝後、横浜市内のホテルで
開催された就任祝賀会の席上、
BSAからお祝いの品として
アンデレクロスの刺繍入りの

スカーフ(ストール)を贈呈し
ました。(写真)



入江主教には、慣例により
BSAの名譽副会長を推戴しま
した。
(理事 テモテ 萩谷長生)

本部チャプレン 高橋宏幸司祭 東京教区主教被選者に 按手式は1月14日(月・祝)

9月1日の東京教区会で主教
に選出された高橋宏幸司祭はこ
れを受諾、10月1日付で、被選
主教となりました。現在1月
14日按手式の予定で準備が進め
られております。

支部だより

南町田支部

夏の映画会報告

アブラハム 松田正人

南町田支部では昨年5月の発
足以来、何を活動の中心にする
かはいまだはっきりとはせず、



試行錯誤中ながら、活動の一つ
の軸には「映画鑑賞」の集まり
を置いています。

本年8月12日、今回は4月に
引き続きの第二回「映画鑑賞会」
としてビジュアル聖書「ヨハネ
福音書」を教会ホールにスク
リーンを立てて、鑑賞しました。
(前回はマタイ福音書)(参加者
は未会員をふくめ14名)日本語
字幕付きで日本語吹き替え版で
したが、聖書を文字だけ追って
いるのではなく、当時の想像さ
れる風景の中、想像される服装
の人物が登場するのはインパク
トもあり、今更ながらに勉強に
なりました。ヨハネ福音書です
から、当然使徒アンデレも登場
します。

マルコ福音書では、イエスが
直接湖で網を下しているアンデ
レとシモン・ペテロを誘ってい
ている逸話、洗礼者ヨハネと
一緒にいるところを通りかかっ
たイエスと出会い、最初の弟子
となったアンデレ。もともと洗
礼者ヨハネの弟子で、ヨハネか
ら洗礼を受けた二人の男、師ヨ

ハネの言う「見よ、神の小羊だ」
という証しに従ってイエスのも
とに泊まった二人のうち、一人
アンデレがイエスの弟子になっ
たのですね。(もう一人は一体
どうなったのでしょうか。)

そしてアンデレが兄弟である
シモン・ペテロを誘った、この
逸話が聖徒アンデレ同胞会の原
点「一人が一人を教会に」につ
ながっているのだなあと、映画
からも実感しました。

支部の活動の中心を何にする
か、「祈りと奉仕」をどう実現
するか、ポール・ラッシュに
フォーカスするのか、国内各支
部とのかかわりを強めるのか、
それともアメリカBSAとの関
係に注目するのはどうだろうか
と考えあぐねています。かつて、
日本のキリスト教会、特に日本
聖公会が各国の宣教団によつて
支えられてきた歴史を思うと、
海外に対してもっと支援の手が差
し伸べられないものかと未成熟
な現実に恥ずかしい思いをしま
す。もっとも南町田支部では、
支部員のエネルギーの範囲でと
活動の枠に縛りを入れていきま
すので無理なことはできません
し、各教区をまたぐ交流支援を
意識するのが精いっぱいかもしれ
ませんね。

根ざしたたくまじさに魅了され
ます。収容所でのイースター礼
拝や、立教大学総長からのポー
ル・ラッシュへの感謝状のこと
などにも感動を覚えました。
さて、映画会(3時間超)の
あとは場所を移して「暑気払い
会」の開始です。(参加者9名)
第一部、第二部とも女性信徒を
誘い加わってもらいました。第
二部も談論風発、それぞれ網な
らぬ車を残して、共にする飲み
食い議論は日頃の礼拝後イベン
トを超えた前向きな集まりとな
りました。まだ、女性会員加入
は解禁していませんが、「もし
アンデレに妹がいたら、きつと
誘っていたらう」と想像し、
性差を超えてどんな信徒も集え
る会になることを夢見ている私
です。

11月30日(金)使徒聖アンデ
レ日に次回集会開催を予定して
います。

同胞会辞典の改定

日本聖徒アンデレ同胞会事典
の改訂が進んでいる。

この事典は1932(昭和7)
年に初版が出され、以来改訂を
重ねてきたが、1983(昭和
58)年の第6版を最後にそのま
まになっていた。

今回は野田理事を中心に、全
理事が数次にわたる検討をし、
BSAの現状を踏まえたものを
めざす。

野田理事は11月の総会に間に
あわせたいといっている。

立教企画グループ
学校業務受託、人材派遣等承ります。

株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント

http://www.rikkyo-planning.co.jp

ホームメイド・チーズケーキの店

CHEESE CAKE
JOHANN
HOME BAKED MADE

和 田 博 子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越 のエキスパート!!
★フロアーの移動
★各種展示会セッティング etc..

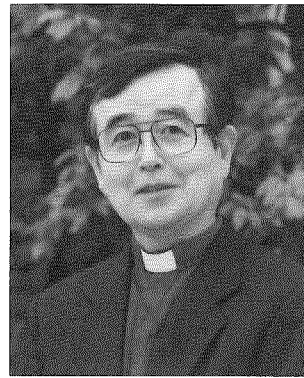
GTEC 株式会社ギンテック

港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

DO YOUR BEST

フランシス 森紀旦主教を偲んで

司祭 セラピム 高橋 顕



7月10日の午前に森紀旦主教様の奥様の敦子様から主教様の突然のご逝去のお知らせを受けました。私はその時、全く信じられない気持ちでした。森主教様は毎主日、目白聖公会の礼拝に出席しておられ、ご逝去される2日前も教会の昼食会でご一

連載「BSAと私」

(第7回)

東京聖三一教会支部

ジェローム 松田義夫

BSAに入会してまだ日は浅い。いわば新参者だ。定例の会合にはほぼ真面目に出席している。有り体に言えば、当初、入会には二の足を踏んでいた。なぜならBSAは立教大学のOB会のような印象が強かったからだ。私は立教とは無縁である。だがBSAの会長(当時)が三一教会の信徒なのに、BSA会員が少ないのでは会長顔が立たないのでは・・・といささか不謹慎な理由で、同僚の名倉敏氏

緒に食事を致しました。腹膜の血管が破裂し、急激に血圧が低下し、ご逝去されたとのことでした。日頃から森主教様ご自身が、万が一のお葬儀の時は、「家族身内で、目白聖公会で、けんちゃんに」と述べておられたとのことでした。主教様は私に親しみをもって、けんちゃんと呼んでおられました。主教様のその強いご希望を受けて、7月12日に、目白聖公会にてご家族とお身内の方々が集まり、東京教区の管理主教であられる広田勝一主教様の司式のもと、私が説教を行い、フランシス森紀旦主教の葬送告別式が執り行われました。

ご一緒に聖公会神学院で過ごしました。「高橋君、困った時の神頼み、とは一般によく言われるけど、嬉しい時の神感謝、というところ大切だよ。」高橋君の卒業論文を読ませてもらったけど、参考文献を君は真つ先に聖書と書いているね。聖書を大切にその姿勢をいつまでも持ち続けて下さい。」森校長からいただいた大切な多くの言葉、教えは決して忘れません。

ご一緒に聖公会神学院で過ごしました。その後、森校長は寮の私の部屋にいられて、私に励ましの言葉を語られました。しかし私は森校長に素直に対応できませんでした。ところが、去って行く森校長の後ろ姿を見つめ直した途端、突然、私の気持ちが変わりました。森校長の後ろ姿が、苦しみを一身に担っている主イエスの姿に見えました。フランシス森紀旦主教は、大切なお姿を、いつも私たちに示しておられました。そのお姿で、今度は神の身許に行かれたのだと、私は深く感じております。フランシス森紀旦主教の魂の平安をお祈り致します。そしてご家族の皆様の上に神よりの深い慰めをお祈り致します。(目白聖公会牧師)

2度目の盛岡での出来事を話したいと思います。教会の門をたたいたのは、昭和38年7月の事でした。佐藤忠男司祭(後の主教)のもとに教会生活をしていました。やがて毎日のように教会の集い、修養会も行われました。青年会のメンバーでした。私もそのメンバーに加わり、盛会に行われました。旧園舎ホールに若者が大勢集いました。右も左もわからない私にとって、もう一つ、「のみ木会」があります。その会に私は精神的にも随分救われました。その会の行事にも参加しました。

今日こそBSAは少人数ながら安定していますが、メンバーが3人のこともあり、それでも例会を守ってききました。私も3人のうちの一人です。今日のBSAは安定し、教会のほこりです。以前には仙台BSAとも交流がありました。無くなり、東北では盛岡だけになりました。前会長のフランシス兵庫裕兄には大変お世話になりました。

と共に入会したわけだ。それにしては会員諸兄の真摯な姿勢には驚く。キリスト教スピリットを胸に秘め熱心に活動している。私にとつて彼らは良き友であり、良き師でもある。ただ奇異に思っていることがある。

ある。つまり正会員ではないのである。どなたがこんな不可解なことをしたのであるか。この問題で連想するのは、少し話は飛躍するが、大相撲で土俵の上に女性は上がってはいけないという「不文律」がある。この不文律の根底にある思想は、「女性は汚れている」という差別的なもののような。大相撲優勝者にカップを渡すため、ある航空会社の女性社員が、そのことを知らずに土俵に上がり、物議を醸したことがある。BSAに女性会員がいないのは、まさかこれと同じ理由ではあるまい。

性が記者活動している。いずれにしてもBSAは、賛助会員といった意味不明のものでなく、正式会員とすることを強く望みたい。

人生、百年に向けて

盛岡支部
フランシス 齊藤高夫



仙台生まれの盛岡育ちの私です。教会生活は55年になります。

その頃、仙台の瀧口三郎司祭、細貝岩夫司祭に囲碁を打ちに行きくようになりました。まだ、初段で人様に教える程でもないのですが、交流のために仙台に泊りがけで行った記憶があります。私が26歳の時に、BSAに入った記憶があり、そのメンバーは人生の先輩達がいて大変なものでした。心の広い人がいて、私の年会費は半額で良いと言ってくれました。当時の会員は大勢いました。しかも教会を支える人々ばかりでした。11月30日の聖アンデレ日には礼拝を守り、朝食会まで行いました。そこからそれぞれの職場に行きました。

人生一言で振り返ると、76年は波乱万丈、教会と囲碁は紆余曲折でした。私生活では仙台空襲から逃れて尻内(現青森県八戸市)に疎開したことなどがあります。同時に戦争中に原因不明の病に倒れ、高熱に襲われて、一ヶ月も眠り、目覚めた時には不自由な身体になり、今日まで続いています。こうなったら100歳まで生きてみたいと思います。また、前後になりますが、36歳頃、ボランティアで手話や指文字を教えていました。そのおかげで、コミュニケーションがスムーズに伝わり、気持ちが楽になった面もありました。幼児教育に取り入れた先生もいました。家族に取り入れた司祭もおられました。

現在一人暮らしですが、健康に気を付けながら、ヘルパーの助けを借りて生きていきます。教会と囲碁は人生の支えとなっています。(盛岡支部副支部長)

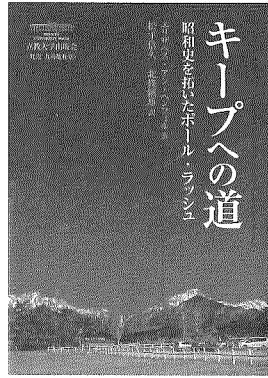
私は職場が教会の近くにあつたので朝食会に参加しました。

『キープへの道』を読む

理事 ダビデ 吉松英美

昨年2017年は、ポール・ラッシュの生誕120周年であった。それに合わせるように、エリザベス・アン・ヘンフィル著『キープへの道』(立教大学出版会)がこの3月出版された。訳者は元立教学院院长でBSA評議員の松平信久氏と立教高校元教諭の北條鎮雄氏。

2段組で300ページもあるが、読後感のさわやかない本である。



パーソナルなところもきめ細かく描写している。ポール・ラッシュに対する著者の愛情と敬意がよく表れていて、ポール・ラッシュ像が生き生きと浮かび上がってくる。特筆すべきは、訳文の素晴らしさ、読みやすさと充実した訳者注であろう。訳者がともに立

表れている。著者の女性的感性も無理なく訳文に感じられる。訳者のきめ細かい配慮が窺われる。

訳者注がこんなに充実している本はそう滅多にあるものではない。私は楽しんで読んだ。この訳者注だけでも、1冊の本を読んだことに値する価値があると思う。原文の間違いや著者の思い違いまでよく調べられていて、翻訳に臨む訳者の良心と姿勢が感じられる。

それにしてもポール・ラッシュという人は、実に面白い人である。枠に収まらない、はみ出たところのある人であるが、そこがポール・ラッシュのラッシュたる所以ともいえる。発想の豊かさ、企画力とそれを実行に移す行動力、付き合ひの広さ、人を説得する人間的な魅力、そして時に子供のようないけな

さを見せるポール・ラッシュ。誰からも愛され、信頼され、ポールのいるところには、常に人が集まる。稀有な人物である。何よりも彼には希望があり、夢があり、目標に向かって全力を尽くす力があつた。そういうことをこの本は余すところなく描いてみせる。

『キープへの道』の原題は、『The Story of Paul Rusch in Japan』という副題がついている。訳者は「昭和という時代は日本人にとってはもちろん、外

国人にとつても起伏と動揺の激しい時代であつた。その時代をラッシュ氏は、雄大なヴィジョンと旺盛なエネルギーをもって歩み続けた。そのことから副題を敢えて「昭和史を拓いたポール・ラッシュ」とさせていたのだという。ポール・ラッシュは、まさに「昭和という時代の申し子」であつた。

『キープへの道』を読んで私が覚えるのは、ポール・ラッシュのBSAと今私たちが身を置くBSAの落差があまりにも大きいという戸惑いである。

私はこの本から、ポール・ラッシュの何を学ぶべきか、大きな宿題を抱えている。

BSA 90年記念誌を読んで

評議員 ヨセフ 松平信久

この記念誌のページを何度か繰り返しながら、構成、内容、装丁ともに素晴らしい記念誌となつたと感じています。編集制作を担当された方のご努力が反映されていきます。ご苦労様でした。

収録された、植松誠主教の記念説教の中で紹介されている教区内巡回の際の体験談は、「希望のBSA」の具体像を端的に示していると思います。高齢化も一つの賜物に違いありません。またこの記念誌では、各教区

主教や歴代チャプレンがもれなく寄稿されていますが、このことも画期的な事でした。会員からのご意見には、これからのBSAのあり方を示唆する貴重な提案が多く含まれていると思います。以下にそれらをまとめ、併せて私の意見も付け加えさせていただきます。

(5) 未信徒会員を迎えるというご意見もありました。アンデレは、何も知らない兄弟や知人を、ともかくイエスのもとに連れてきました。そのことを思えば、このご意見も貴重な提起であると思います。育成会員というような会員制度を設けるのも一案かと思えます。

(6) BSA叢書は、ハンデいな教養書として、独自の役割を果たしてきました。活字媒体の役割が減退している現状ですが、思い立った時にすぐに取り取って読むことのできるハンドブックの存在意義は依然として小さくありません。課題はどのようなテーマにするかでしょう。会員からアイデアを募る機会を増やそうとのご意見は、とも一計だと考えます。

(7) 立教大学のBSAとの関係を育てるというご意見は、重要な役割を果たしてきたことが、はっきりと読み取れます。是非、継続企画、新企画を推進していただきたく思います。

(8) 本会誕生の地

濃淡の山重なりて盆の道
獅子舞や紅一点の笛が随く
行き交うはYシャツ姿雲の峰
杖つかず歩く老人地虫出づ
春障子作務衣の男すぐ消える
栄転の話を汐に亀鳴けり
緑陰や疎開の話出来る友
.....

(4) 機関紙VISIONは、聖公会新聞が休刊中の状況で、事実上、唯一と言える全国紙です。そのことを念頭に置いて、管区の動き、各教区の動向など、掲載記事の範囲を広げる方向も検討に値すると思います。

(3) 遺跡巡りは、会員の学習、交流、新会員の獲得に重要な役割を果たしてきたことが、はっきりと読み取れます。是非、継続企画、新企画を推進していただきたく思います。

(2) 地方別にみれば、とびとびの支部所在とは言え、BSAは聖公会の中で稀少価値のある全国組織です。この特徴を生かし、更に発展させるために、支部交流、会員交流、教会訪問の機会を増やそうとのご意見は、

(1) 女性を正会員として迎えるべきだとのご意見は多くみられます。私もこのご意見に賛成です。すでに賛助会員になっておられる女性も多く、男女の區別をする正当な理由は見当たりに

(5) 未信徒会員を迎えるというご意見もありました。アンデレは、何も知らない兄弟や知人を、ともかくイエスのもとに連れてきました。そのことを思えば、このご意見も貴重な提起であると思います。育成会員というような会員制度を設けるのも一案かと思えます。

(6) BSA叢書は、ハンデいな教養書として、独自の役割を果たしてきました。活字媒体の役割が減退している現状ですが、思い立った時にすぐに取り取って読むことのできるハンドブックの存在意義は依然として小さくありません。課題はどのようなテーマにするかでしょう。会員からアイデアを募る機会を増やそうとのご意見は、とも一計だと考えます。

メリカです。米国BSAの現状がどうなのか、私たちのほとんどは、何も知りません。しかしお

そらく活発に活動を続けているものと思われます。その様子を知らずしては我々の刺激になるに違いないと思います。幸いなことに今次の理事会は、双方の交流を図るのに好都合な構成になって

います。この記念誌を送る代わりに先方の機関紙を送ってもらうことなどを通して、情報交換をすることも進めてみてはいかがでしょうか。

「VISION」文芸

松岡正治

天地(あめつち)の荒れ狂いたる
この夏の心休める時やあるらん
山崩れ家潰されて帰らざる
火山灰地と知るや知らずや

BSA六年ぶりのセミナーに
予想を超える人や来たれり
幕末に聖公会の葬儀あり
ペリー提督の部下横濱に死す

横濱の外国人墓地散策す
埋葬一号ウイリアムズ水兵

吉松英美

.....

.....

清里高原だより 清泉寮ニューコース

清泉寮創立80周年& クリスマスイベントの お知らせ

今年清泉寮にとって創立80周年という記念すべき年です。1938年の7月24日、清泉寮が落成し、ポール・ラッシュの清里での事業がスタートしました。

それまでは訪れる人も少ない荒野だったこの場所に清泉寮という場ができたことで、80年という歴史の中で果たしてどれくらい多くの人がここを訪れたでしょうか。それを思うとポール・ラッシュの働きの不思議さと、多くの方々が支えてきてくださったことへの感謝が込み上げてきます。

間限定で復刻する予定です。さらに12月9日には記念コンサートを開催します。指揮はジェームズ・ドーンソン氏、オルガン演奏は崎山裕子氏、合唱には立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊をお招きいたします。

■清泉寮創立80周年記念コンサート
日時：12月9日 13時30分開場
14時開演
会場：清泉寮新館ホール
料金：1,000円 全席自由
ご予約・お問合せ：清泉寮
0551-48-2111



KIYOSATO KEEP
SEISEN-RYO
80th ANNIVERSARY

80周年を記念するとともに皆様にもお楽しみいただくため、清泉寮では様々な取り組みを行っています。清泉寮の館内では、歴史を物語る写真を多数展示しています。本館レストランでは記念メニューをご提供しており、冬には人気メニューを期

間限定で復刻する予定です。さらに12月9日には記念コンサートを開催します。指揮はジェームズ・ドーンソン氏、オルガン演奏は崎山裕子氏、合唱には立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊をお招きいたします。

また、クリスマスにもボサノヴァコンサートや清泉寮ご宿泊の方対象の楽しいプログラムもご用意しております。この機会にぜひ清泉寮へお越しください。



産であるバナウエの棚田を代表する豊かな自然と、コミュニティを中心とした古くからの伝統文化や生活が息づく美しい地域でしたが、環境汚染と経済開発に脅かされつつあり、伝統文化と環境の保全の必要性を強く認識した反町氏の要請を受け、キープ協会が設立の後見人となり、CGN(コーディネイラ)が2001年に設立されました。これまでも幾度にもわたる人的交流や研修交流が活発に行われ、今年も2名のスタッフが、清里の地で様々なプログラムに関わり、互いに学び、また価値を提供しあっています。

また、クリスマスにもボサノヴァコンサートや清泉寮ご宿泊の方対象の楽しいプログラムもご用意しております。この機会にぜひ清泉寮へお越しください。

ミカさんは昨年引き続き2度目、ロシエルさんは初めての来日です。両名ともに、「アートを通じた環境教育」のプロフェッショナルとして、公用語である英語を通じて、地元の高校に向けた「サイエンスイングリッシュキャンプ」や、小学生を対象とした主催事業「清里イングリッシュキャンプ」にて、彼らならではのオリジナルでユニークなプログラムにて、新しいかたち学びを提供しています。

BSA100周年に向けて
理事 ダビデ 吉松英美

先日の支部長会議でも出席者から、BSA100周年をどうするのかという意見が出た。本紙1面にもあるように、足立会長も早めにプロジェクトを発足させて、準備に取り掛かりたいといっている。

BSA90周年記念誌の編集で永井信行さんと私が苦労したのは、年表である。VISIONのバックナンバーを調べながら、グラに追加していった。結局年表だけでも当初の倍に増えた。

歴史なことをするには、まづ年表がものをいう。年表さえしっかりしておれば、何をすることも役にたつ。たとえば、座談会を例にとれば、年表が出席者の手元があれば、話題も拡がり、話も弾む。しかし、年表がないと、記憶の曖昧なことは避けることになり、話題も限られ、座談会は瘦せたものになる。

90年誌の編集で分かったことは、BSAには、VISIONを除くと、写真や印刷資料がほとんど保存されていないということであった。つまり、資料保全態勢が整っていないのである。

そのVISIONも1972(1975年と1975年)現在までを除くと、散逸した号がほとんどである。本ページの5段に「BSAアーカイブス」と称して古い資料の提供を呼びかけたのは、その時になってからあわてても遅いから、今のうちから集められる資料は集めておこうという事情からである。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

（ご連絡先）
〒106-10011
東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
日本聖徒アンデレ同胞会
BSAアーカイブス係

BSAアーカイブス
BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部まで一報ください。

BSA本部まで一報ください。

BSA本部まで一報ください。

BSA信徒叢書
聖公会という名の教会(一) 竹内 寛著
聖公会という名の教会(二) 今井 泰治著
奇跡は語る 竹内 寛著
復活 竹内 寛著
聖書に聴く(一)(二)(三) 清水敏彦著
キリスト教史―古代 菊地栄三著
キリスト教史―中世・現代 菊地栄三著
十字架 竹田 眞著
サクラメント 竹田 眞著
礼拝一口メモ(一)(二) 竹内謙太郎著
わたしたちの祈祷書 森 紀旦著
米国聖公会(一)(二) 飯田徳昭著

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。

BSA本部では、古い資料を探しています。1975年以前のVISIONやBSAに関する古い写真、印刷物などです。お持ちの方は、BSA本部まで一報ください。